

第 4 期 芽室町 総合計画

第 4 回 検討委員会 議事録

日 時 平成 1 8 年 1 0 月 1 2 日 (木)

場 所 中央公民館 2 階講堂

会議次第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 総合計画講義
「生きる総合計画づくり」
アドバイザー：北海道大学公共政策大学院 助教授 山崎幹根氏
- 4 その他
- 5 閉 会

出席委員

(町民)

堂畑忠雄、熊谷良二、太田光子、小山友子、立川美穂、常通直人、明瀬幸子、菊地幸子、佐藤正行、片桐和江、武藤保宏、西本富行、家内裕典、赤澤 一、後藤裕子、高原健一、三好佳子、中村美苗、青木 昇、久保一光、村瀬弘道、島影由里香

(行政)

中島直隆、山崎光男、鈴木 昇、手島 旭、関澤正茂、加藤光幸、佐野寿行、笹島優司、西科 純、伊藤義孝、小笠原力、清野公平、谷保義明、木村淳彦、高橋一夫、後藤 雅、紺野 裕、黒田 豊

欠席委員

(町民)

鳥本勝信、田部ミサ江、河合友子、猪野毛勝啓、上谷秀靖、岡山美椰子、舟渡秀博、荘司和子

(行政)

齋藤明彦、江口美生男、江口久子、安田敦史、吉田正博

傍 聴 人 0人

事務局

(総務部長 中島 直隆)*委員

(企画財政課長 手島 旭)*委員

企画財政課長補佐 松浦 智幸

企画財政グループ主査 石田 哲

同 主任 小林 徳昭

同 主任 斉藤 冬樹

午後7時 開会

1 開 会 手島企画財政課長

2 委員長挨拶

3 総合計画講義

「生きる総合計画づくり」

アドバイザー：北海道大学公共政策大学院助教授 山崎幹根氏

講義内容

総合計画づくりの重要性

- ・ 委員の皆さんも忙しい中、夜に集まって計画策定をされており相当なエネルギーを使うものだと思う。せっかくエネルギーを使うのだから、具体的なものとし、使えるものとしましょう。
- ・ 「すまいる」のバックナンバーを読んだが、非常に分かりやすい内容。単なるお知らせではなく、問題提起型のものとなっている。こうした町での総合計画づくりに期待。
- ・ 総合計画は町の地方自治運営の根幹といえる。それでは「総合計画をつくる」とはどういうことかということ、町の現状と課題を見つける絶好の機会であるといえる。
- ・ 皆、必ずしも自分のまちのことを知っている訳ではない。一歩立ち止まって掘り下げることがなかなかない機会。第3期総合計画をもとに芽室町を振り返り「めむろらしさ」とはどういうものか、気づいていない強みや課題を洗い出してほしい。
- ・ また、個々の行政活動の特徴を点検し見直すものでもある。10年前と比べて行政サービスは良くなったか。似たような自治体と比べて芽室はどんな質があるか。様々な視点から見直す好機が計画づくりとなる。
- ・ 芽室町は自主・自立推進プランに基づいて町政を進めている。その中では、交付税の減額までも考慮した財政推計を行っている。私は、小泉政権後のこれからの5年についても、中央から地方への押し付けがあると思っている。国主導による財政再建の姿勢が強まってくるものと思う。こうした今後の10年を見据える必要がある。
- ・ さらに、道と市町村の関係も変わってくる。権限移譲や道州制、開発局との関わりも。
- ・ 総合計画は将来展望でもある。長期的な「夢」を描く作業であり、望ましい社会の姿・芽室らしさはどうあるべきか。とはいえ、空想や非現実的なものではない。
- ・ 計画の策定に至るプロセスが重要。そのために町政の仕組み・運営をどのように創っていくべきか。私はそのためには「住民自治の強化」を第1の柱となり、より効率的・効果的に自治体を運営するための「行政経営能力」が第2の柱であると考えている。

自治体総合計画の現状と課題

- ・ 資料の5ページから、日本都市センターによる全国の市・区を対象とした総合計画アンケートの調査結果を掲載した。総合計画策定の目的・意義として「総合的な観点からの政策体系化」や、「現状・課題の解決策の把握」「将来的な方針・見通しの明示」「市民への行政活動の内容等を説明」「基本構想の法定化」などの回答が上位に挙げられている。
- ・ また、策定体制（7ページ）では「審議会等に住民組織の代表者が参加」「審議会等に各種団体の代表者が参加」「市民意識調査の実施」などが上位に挙げられる。
- ・ 総合計画の課題（8ページ）としては「内容が総花的」「事務事業の優先順位が不明確」「マ

ネジメントの視点の欠如」「職員に計画進行管理の意識が希薄」などが上位。

住民と役場との情報共有として

- ・ “何のために役場は政策を実施しているか”分かるのが大事。総合計画をベースにして議会と首長、議会と役場が議論できるように。そのためには目標管理型の計画を作ってほしい。計画は、樹形図（ツリー）型となり裾野が広がる形となるが、それぞれが目的 - 手段としてつながるようになってほしい。
- ・ しかし、こうした目標設定は重要である反面、設定が難しい。そして、必ずしも全ての政策目標を設定できる訳ではない。馴染むもの・馴染まないものがある。何をもちょう目標値とするか。犯罪発生数、交通事故発生件数など設定しやすいものもあるが、大体のものは設定が難しい。究極的には「 に関する住民満足度」を計るということもある。
- ・ 目標値設定は大きな労力を伴うもの。では全く設定しなくとも良いのか。そうではなく、施策等の性格によって異なると考えるべき。行政活動を点検するための一つの物差し。例として“図書館の貸出冊数が増える”ことを目標に置き、それだけの評価するのであれば、ベストセラーや漫画を置く方が良くことになってしまう。それは望ましい姿ではない。
- ・ 資料の1～4ページは、他自治体の総合計画の一例を抜粋したもの。1ページ目は三重県、2ページ目は帯広市、3ページ目は大和市、4ページ目は白老市。

住民と行政の協働として

- ・ 政策を実行する主体は必ずしも全てを役場が担うという訳ではない。現在では指定管理者制度などもあり、公共サービスの担い手は多様化。
- ・ さらに、行政サービスを考える際には事業費だけでなく人件費・間接費など共通経費も掛かっていることを忘れてはならない。直営のゴミ収集を民営化するにしても、図書館や郷土館を委託するにしても、トータルコストで考えなければならない。

行政経営のツールとして

- ・ 総合計画の今後のステップアップの課題として、どれだけ予算編成や行政評価と連動できるか、ということがある。それを行っていくことが自治力の強化につながる。
- ・ 政策を行う組織の単位、それらへの権限の移譲も重要である。
- ・ 総合計画は「個々の職員の理解と頑張り」と「トップのリーダーシップ」が欠かせない。

（質疑応答）

- Q フルコスト視点について、公会計には企業会計の考え方も必要とのことだが、例として記載されている減価償却費や退職金引当といった考え方は既にあるのでは。
- A 必ずしも適切な例ではないかもしれないが、トータルコストを計るには新しい視点が必要ということ。

4 その他

次回日程等の予定を次のとおり連絡した。

- ・ 日時：11月9日（木）19：00～
- ・ 場所：めむろーど2階セミナーホール

5 閉 会